

令和2年度 認定こども園事業報告

社会福祉法人 櫻心会
認定こども園 さくらんぼ愛園

令和2年度より、幼保連携型認定こども園 さくらんぼ愛園としてあらたにスタートしたものの、コロナウイルス感染症の拡大により、社会全体が振りまわされるなかで我々現場も様々な行事の中止や、縮小を余儀なくされた。しかし、このような困難な状況下でも、教育・保育をストップさせることなく、子どもたちの最善の利益を考慮し、保護者が安心して預けられるよう、園、家庭とのつながりを大切にしながら子どもたちを受け入れた。

コロナ対応に振り回されたが、園が子どもたちにとって生活の場であり保護者の生活を支える必要・不可欠な存在であるということに改めて感じると共に、自分たちの責任の大きさも再確認出来、社会を支える魅力的な仕事であることも痛感出来た一年となった。

1. 家庭や地域社会との連携について

- (1) 園と家庭との連携を密にするためクラスだより・給食便りを毎月、園だより・ほげんだよりを不定期で発行した。毎日の保育の様子をアプリで配信、絵日記で子どもたちの様子を可視化していく事で、さらに理解と協力を頂くことが出来た。
- (2) 老人施設慰問・お祭り参加は、コロナ禍のため中止。
- (3) コロナ禍のため感染予防を十分に行い、運動会・発表会等の行事を行う。場合により人数制限も行った。

2. 教育・保育活動について

- (1) 幼保連携認定こども園教育・保育要領を遵守し、明るく思いやりのある元気な子を目標に努力した。
- (2) 菜園活動に力を入れた。収穫した野菜等を使っての毎月のクッキング保育、自分達で調理し、食べることで作る楽しさ・食の大切さを伝えた。
- (3) 体操教室を月3回（木曜日）幼児期は一番神経系が発達する時期だと言われていいる。リズム運動で体を柔軟にし、多種多様の運動スポーツがライフスタイルの一部となり、好きになり、自信をつけ、心と体を鍛え健康な子どもに育つことを願って行った。
- (4) 英語教室を月3回（月曜日）英語に親しみを持ち、音楽やゲームを通して英語や外国の文化にふれ、英語を使って表現することを楽しむことが出来た。

幼児英語教育の経験豊富な先生と本物の英語に触れ合う時間を大切にした。

- (5) 和太鼓教室を月3回（水曜日）、日本文化を伝承し、その響きやリズム、いろいろな打振りの動きを楽しみながら集中力を養い、居ずまい・たたずまいを整える。コロナ禍により発表の場が限られ残念だった。
- (6) 漢字保育（毎朝 10 分～15 分）正しい姿勢を保ち、聞く力・見る力・発表する力を育てる。絵本の読み聞かせや漢字に触れ、百玉そろばんや時計等を使用し身近にある数字に興味・関心をもつ。
- (7) リズム運動遊び（毎週金曜日）全園児で行い、大きい子から順番にリズム運動をすることにより、年齢の低い子どももそれを見て模倣するようになる。子どもたちの自発性をうながすため、指示を出さず自分の耳で聞き自分の順番を判断するようになった。

3. 給食について

子どもの発育に必要な栄養のバランス及び栄養量を考慮し、献立を作成した。また、子ども達が喜んで食べるように色彩感あふれる給食を出した。お当番さんが朝のお集まりで献立と食材の紹介と昼食前にお味見をする。ランチルーム前に献立メニューと食材を毎日展示した。

4. 職員研修について

コロナ感染拡大予防のためリモート研修会に多く参加し、職員の資質の向上に努めた。また、職員会議において出張報告を行った。

5. 保険、安全等について

- (1) 嘱託医に依頼して、園児に5月に歯科検診を7月に健康診断検診を実施し、治療の必要な子は治療してもらった。
未受診の子どもについても後日病院に連れて行き全園児についても健康状態の把握を行った。
- (2) 職員の健康診断も全職員受診した。
- (3) 保育環境の整備については、いつも園庭の花を絶やさないように努めた。

6. 地域活動

- (1) 地域での行事がコロナ禍のため中止になり活動が思うように出来なかった。